

大学院

地球市民学演習「地球社会論と地球市民学」

1. テーマ

地球社会論と地球市民学

2. 授業内容

地球社会論につながる先行諸学説を研究し、それらをふまえて地球社会論を立てたうえで、それを前提とした地球市民学のあり方を検討する。

3. 授業計画

第1部 地球社会論から地球市民学へ

- I 地球社会論の背景（1）：世界社会論・国際関係論・比較体制〔社会〕論
- II 地球社会論の背景（2）：近代化論・従属理論・世界システム論
- III 地球社会論の背景（3）：国際社会論、現代思想、ポストコロニアリズム
- IV 地球社会論の構築：社会理論と現状分析の方法
- V 地球市民学の創造：序説・社会理論・現代社会分析・実践論

第2部 地球市民学の創出

- I 市民とは？：地球市民学序説
- II 市民が社会をとらえる：地球市民の理論社会学
- III 変わりゆく現代社会：地球市民の現代社会学
- IV 市民の生き方：地球市民の実践社会学

4. 授業方法

最初に講義の概要について説明する。次回からは、毎回テキストを指定するので、それを読んできて討論する。順番に内容説明と問題提起とを行う報告者になる。前期と後期の終わりにそれぞれまとめのレポートを提出する。

5. 評価方法

出席40%、報告30%、学期末レポート30%。

6. 教科書・参考書

教科書：『地球市民学を創る：地球社会の危機と変革のなかで』（庄司興吉編著、東信堂、ISBN978-4-88713-896-4）。

教科書：『市民学入門』（庄司興吉著、2010年9月刊行予定）

参考書：『社会学の射程：ポストコロニアルな地球市民の社会学へ』（庄司興吉著、東信堂、ISBN978-4-88713-874-2）

参考書：『地球社会と市民連携』（庄司興吉著、有斐閣、ISBN4-641-07624-3）。

この授業については、庄司のホームページを見て、必要な資料等があればダウンロードしておくこと。

該当ページは、「市民の社会学をめざして <http://www.kokshoji-globalcitizen.com/>」の「市民学の確立のために」のなかから探す。

第1回（100415）

授業内容の説明。

参加者の関心、要望などを出し合い、議論して今後の方針を決める。

とりあえず『地球市民学を創る』を読み始めることに。

第2回（100422）

『創る』を読み始める。

第3回（100506）

前回は「序」で終わったので、第1部のⅠ「地球社会論の背景（Ⅰ）世界社会論・国際関係論・比較体制〔社会〕論」に入る。終わればⅡ「地球社会論の背景（Ⅱ）近代化論・従属理論・世界システム論」へ。

自分の報告担当部分以外も全員読んでくる。

第4回（100513）

テキストをめぐる討論。前回は、世界社会論をめぐって基礎的な社会学理論の訓練をしたので、それをふまえて国際関係論以降へ。

自分の報告担当部分以外も全員が読んでくるのを忘れない。

第5回（100520）

今年度第1回公開合同セミナーに参加する。

これまでのゼミの成果を生かして、積極的に発言する。

第6回（100527）

これまでのゼミの成果をふまえて、世界社会論と国際関係論について理解したことをまとめしてみる。

A4用紙で2ページほど書いてみることに。

第7回（100603）

テキストについて議論を進める。

比較体制〔社会〕論から近代化論へ。

第8回（100610）

前回はパーソナルなものと地球市民学との関係について庄司が問題提起し、考えた。とくに人の生死のこと。これからは性愛のことなどについても考えていきたい。

それをふまえて、テキストについての議論の続行。比較体制〔社会〕論から近代化論へ。

第9回（100617）

今年度第2回公開合同セミナーに参加する。

これまでのゼミの成果を生かして、積極的に発言する。

第10回（100624）

各自、比較体制〔社会〕論から近代化論への流れを、第二次世界大戦後の東西問題（資本主義と社会主義の対立）および南北問題（先進諸国と第三世界諸国の対立）と関連づけながら論じてみる。A4用紙2枚くらい書いてみることに。

第11回（100701）

近代化論から従属理論へ、さらに世界システム論への展開をめぐる議論を続ける。

第12回（100708）

今回は近代化論をめぐる議論で終わったので、従属理論から世界システム論への展開に議論を進める。

第13回（100715）

今年度第3回公開合同セミナーに参加する。
これまでのゼミの成果を生かして、積極的に発言する。

第14回（100722）

院生主体の公開合同セミナーと合流。

「地球社会論と地球市民学」の夏休みまえの議論は『地球市民学を創る』の第一部第1章と第2章で終わったので、世界社会論から世界システム論までの展開を第二次世界大戦後の歴史と関連づけてとらえ返し、地球社会論への大きな流れについてこれまで学んだことを整理してみる。A4用紙横書きで4000字程度は書いてみることに。

第15回（101007）

夏休み中の学習、研究、調査、その他の体験を出し合い、議論する。
そのうえで、後半のゼミの進め方について、方針を決める。

第16回（101014）

テキストをめぐる議論の継続。
『地球市民学を創る』第一部第3章7をめぐる。

第17回（101021）

テキストをめぐる議論の継続。
『地球市民学を創る』第一部第3章8をめぐる。

第18回（101028）

公開合同セミナーに合流。これまでの成果をふまえて積極的に参加する。

第19回（101104）

教室でのゼミはなし。次々回から第一部第4章にはいるので、全体を読み、どの節の報告者になっても大丈夫なように準備しておく。この章が全体のハイライト。

第20回（101111）

テキストをめぐる議論の継続。
『地球市民学を創る』第一部第3章9をめぐる。学説編（第1章から第3章まで）をどう総括するか？
第14回に課したレポートを出していない人はすぐにも出す。

第21回（101118）

テキストをめぐる議論の継続。

『地球市民学を創る』第一部第4章に入る。
諸相に授業が延びれば、時間が短くなるかも。

第22回（101125）

公開合同セミナーに参加。
庄司の話題提供にもとづいて諸相の議論をもっと広く展開。

第23回（101202）

テキストをめぐる議論の継続。
『地球市民学を創る』第一部第4章に入る。

第24回（101216）

テキストをめぐる議論の継続。
『地球市民学を創る』第一部第4章3, 4, 5, 6をめぐる。